

OMR(光学式マーク読取装置)の
SEKONIC
株式会社 セコニック www.sekonic.co.jp

ケーススタディ①

— 1 面参照 —

中小の経営 — 100%再生エネ化



深層
SPECIAL EDITION
断面

と説明。2工場の面積はそれぞれ510平方メートルと280平方メートル。『再生エネは高い模。』『再生エネは高い』
と思っていたので驚いたと振り返る。

20日から念願の再生エネ化が実現したが、「すぐに商売につながらない。評価されるのは10年後でいい」と話す。再生エネ導人が評士に直結する大企業と違い、創業90年の鍛冶屋は「続けることに意味がある」と言葉に力を入れる。そして「地域で再生エネが増えほしい」と願う。燕三条が災害に強い街になつてほしいからだ。

温室効果ガス ゼロに先手

電気代2割減の拠点も

拠点となると社内の抵抗が予想されるが三洋商事地球環境・未来創造部の石田公希部長は「苦勞や理解の壁はほとんどなかった」と振り返る。以前から企業の社会的責任（CSR）に力を入れてきたからだ。同社は電機機器のリサイクルや産業廃棄物処理業を展開する。「産業処理のイメージを変えたい」という歴代の経営者の思いから環境活動にこだわってきた。今年設立した地球環境・未来創造部もその一つで、環境活動を外部に発信する。石田部長は「発信によって一般の人との距離が縮まる」と河原林令典社長に要望したと明かす。石田部長は入社3年目で初代部長に就いた。中小企業のサイブだからこそ一氣に変革できる。従業員の見解が経営層に届きやすい」と語る。従業員が再生エネ導入の声を上げ、企業の取り組みを要する事例は今後他社でも出てきそうだ。再生エネは一般的に高価と思われている。また再生エネを電気として購入できることも知られていない。再生エネに関連する先入観を取り払うことも中小企業の普及に欠かせない。

UCHIDA

テレワーク時代のワークプレイスソリューション。

テレワークが加速する中で、一人ひとりが持つ能力を最大限に発揮させるワークプレイスの進化は、働き方変革における大きなテーマです。

限られた会議室を効率的に運用すること。

対面での参加者とリモートでの参加者の創造性を融合させること。

オフィスにおける時間と空間を有効に使うこと。

UCHIDAは、働く人と働く場を見つめ続けてきたノウハウと先進のテクノロジーで、新しい時代の新しいワークプレイスソリューションを提供します。

ICTで「働く場」は変わる。

UCHIDA

新しい働き方を提案する、オフィス新製品のオンライン展示会

UCHIDA FAIR 2021

UCHIDA FAIR 2021

【開催期間】2020/11/26-2021/4/20 office.uchida.co.jp/ucdfair/

